

私にも
言わせて!
第137回

たのしみや にしのみや
公衆衛生医師と小児科医は、
大きく異なる仕事なのか!?

期待の若手からは程遠い存在ですが、せっかくの機会を頂きましたので、有難く寄稿させていただきます。タイトルのたのしみや にしのみやは令和7年4月1日に市政100周年を迎える、西宮市のキャッチフレーズです。

勤務医からの転職

私は卒後約23年間小児科医として臨床現場に従事し、保健所に勤務する前の約10年間は、西宮市内の大病院(母校です)に勤務しておりました。その間、保健所の事業である定期予防接種の集団接種や健康相談事業への出務、市の療育施設での診察にも従事しておりました。臨床に疲れ切った訳ではないのですが、「小児科勤務医として一定はやり切った、地域保健をやってみたい、病院外が日常生活となる生活してみたい」と思った時期と、西宮市が公衆衛生医師

を募集していた時期が重なり、ご縁があつて西宮市役所に入職致しました。入職後の2年間は、臨床現場と役所ではいろいろと勝手が違うだろうとの配慮から保健所外の仕事も見学し、産業医を兼務させていただきました。この経験が、コロナ禍で保健所業務が逼迫した際、市職員の応援をお願いする上で、非常に役に立ったと思っています(もちろん、当初はその様な事態になるとは、夢にも思っておりませんでした)。

阪神淡路大震災と
新型コロナウイルス

大きな声で叫ばれる中、増員を認めていただいたことに感謝し、やりがいを持って働ける職場を目指したいと思っています。保健所で働く医師にとって、臨床現場での従事を通じた現場経験が政策の企画・立案に生かされると訴え、新しく職務免除の制度を導入しました(他市の真似です)。遅まきながら、やがて訪れる2040年問題に備えて、DX推進にも取り組んでいきたいと思っています。

公衆衛生医師となつてからは元小児科医と名乗っておりましたが、ある時、小児難病患者の支援者会義に出席していた時、その場に出席しておられた小児科の先生より「先生は今でも小児科医ですよ」とのお言葉を頂き、この言葉にとて勇気付けられました。これからも小児科医を名乗れるよう、公衆衛生医師との両立を模索していきたいと思えます。年に数回ですが、乳幼児健診や乳幼児発達相談に出務しており、地域の先生方との接点を持つように心掛けております(一応専門医資格も維持できております)。

大病院の勤務医時代にはNI

CU(新生児集中治療室)も経験しました。人工呼吸器から離脱できない方や、生まれて一度も病院の外に出たことがない方もおられます。自宅や地域で生活する、いわゆる医療的ケア児も増えつつあります。小児科医と公衆衛生医師は、職場が病院か役所かという違いはあつても大きく異なる仕事ではなく、むしろ、共通点が多い仕事だと私は感じています。そして、寝たきりの子どもたちと共に生きるご家族から、多くのことを学んできました。

落ち込んだ時と
「病者の祈り」

大人になり、社会人になると、仕事や日常生活の中で、大きな挫折感を味わうことがあります。どうしようもない事態に遭遇することもあります。落ち込んだ時には研修医の頃に出合った次の詩を読み返します。ジャーナリスト山川千秋氏の闘病記の中で紹介されていた詩です。私にとっては胸に刺さる詩ですので、この場を借りて紹介させていただきます。



西宮市保健所長
福田 典子

大阪府東大阪市出身。平成6年兵庫医科大学卒業。卒後は小児科医として、兵庫県や大阪府の医療機関に勤務。平成30年より西宮市保健所勤務。令和2年より現職。

保健所長になって
激動の3年半を振り返る

令和2年10月、コロナ禍の真ん中に突然保健所長を仰せつかり、緊張と戸惑いが連続する毎日を経験致しました。兵庫県では毎月1回、県下の保健所長が集まる保健所長会があり、この会議で公衆衛生の経験が豊富な先輩所長に教えるを請いながら、また先進的な取り組みをされている自治体や近隣市のやり方を教えていただきながら、西宮市に合う形に落とし込むこと(丸ごと真似する場合を含む)、それが私の仕事だと信じて、働いてきました。

頑張った成果かどうか分かりませんが、今年度から、公衆衛生医師が1名増員され、当保健所に勤務する医師は3名となりました(3名とも女医です)。経費削減が

これから

さて、これから。コロナ騒動から一定の落ち着きを取り戻したので、少し腰を落ち着けて本来の保健所業務に取り組みたいと思っています。市型保健所は、保健所機能と保健センター業務が一体型となつており、政策の企画立案段階から、関係機関との調整、事業の実施・分析・評価、持続可能な体制構築まで、一元化して行うことが可能です。また医療機関との距離が近く、連携が図りやすい強みを持つっており、介護や障害などの福祉分野からも保健所の持つ保健医療分野の機能を生かすことを頼りにされております。保健所の仕事は地味で何をしているかよく分からないといわれますが、地域活動を継続しながら、デスクワークのみのイメージを覆す小さな新しい風を吹き込む存在になればと思います、毎日を過ごしております。最後にになりましたが、皆さま、今後とも引き続き変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

「病者の祈り」

(ニューヨーク・リハビリテーション研究所の壁に書かれた一患者さまの詩)

大事をなさうと力を与えてほしいと神に求めたのに
慎み深く従順であるようにと弱さを授かった
より偉大なことができるように健康を求めたのに
より良きことができるようにと病弱を与えられた
幸せになろうとして富を求めたのに
賢明であるようにと貧困を授かった
世の人々の賞賛を得ようとして権力を求めたのに
神の前にひざまずくように弱さを授かった
人生を享受しようとしてあらゆるものを求めたのに
あらゆることを喜べるようにと生命を授かった

求めたものは一つとして与えられなかったが願いはすべて聞き届けられた
神の意にそぐわぬ者であるにもかかわらず
心の中の言い表せない祈りはすべてかなえられた

私はあらゆる人の中でもっとも豊かに祝福されたのだ

山川千秋・山川穆子著『死は「終り」ではない 山川千秋・ガンとの闘い一八〇日』文藝春秋